

AWC日本連通信

日米のアジア支配に反対し、アジア民衆の連帯を推進する日本連絡会議

第4号

2017年2月19日

カンパ50円

<http://www.awcjapan.org>

2017年、激動の年 全国でたたかおう



2017年は激動の年になりそうです。アメリカでは、保護主義と排外主義を標榜するトランプ政権が発足しました。貧富の格差拡大を推し進めてきた新自由主義グローバリゼーションの一つの破産が、こうした保護主義と排外主義の台頭をまねきました。この流れは、欧州各国でも大きく台頭しています。主要な資本主義諸国は、新たな対立と抗争、自らの権益確保のための侵略戦争の激化、こうした方向に突き進んでいこうとしています。一方で、保護主義と排外主義の流れの対極に、各国で「左派」が伸張していることも事実です。こうした特徴は、資本主義各国を席卷していくでしょう。明らかに、本年は、激動の年となるでしょう。

さて、こうしたなかで、安倍政権による反動的な攻勢も強まっていこうとしています。トランプ政権の登場によって、日本の支配層は、「日本独自の防衛・外交」を強めることに向かおうとしています。安倍政権は、今国会で、「テロ等準備罪（共謀罪）」、天皇生前退位の法案を準備しています。同時に、日米両政府は、沖縄の辺野古新基地建設や原子力空母ロナルド・レーガン艦載機の岩国移駐の開始など岩国基地の大強化を強行していこうとしています。今年度の予算案では、防衛費は5兆1000億を超えました。また、「働き方改革」を叫び、労働者支配を一層強めようとしています。保護主義と排

外主義が世界を席卷するなかで、安倍政権は、独自の侵略と軍事出動の体制を着々と進めようとしています。こうしたなかで、野党も、天皇生前退位をめぐる、これを「政争の具にはしない」などと、天皇のもとでの総翼賛体制に屈服しているといえます。

2017年、ますます、労働者民衆自身が自らの力でたたかいを強めることが要求されています。TPPもアベノミクスも破産しました。主要資本主義諸国は、混迷と分裂・抗争を強めています。わたしたちは、世界各国で登場する「左派」の流れと連帯しつつ、そうした一翼で、たたかいを強めていかねばなりません。昨年、高江ヘリパッド建設、辺野古新基地建設、岩国基地強化、京丹後米軍Xバンドレーダー基地反対闘争など、各地で、反戦反基地闘争を進めるとともに、伊勢志摩サミット反対闘争では、3名の仲間を逮捕されながらも、韓国やフィリピンなどの仲間と国際共同闘争でたたかいました。こうした国際連帯・国際共同闘争の流れを一層発展させ、辺野古新基地建設・岩国基地強化、さらに横田オスプレイ配備など、各地でたたかいを強化しましょう。「テロ等準備罪（共謀罪）」、天皇制の大キャンペーン、憲法改悪策動と対決していきましょう。安倍政権を倒す民衆のたたかいをともに大きく前進させていきましょう！

（全国事務局長）

岩国行動2016 報告

2006年3月12日の住民投票で、岩国市民は突如として浮上した厚木基地からの基地強化—空母艦載機移駐に反対する意思を鮮明に示しました。それから10年の間、岩国の人々は艦載機の実際の移駐を止め続けてきましたが、しかしその間に愛宕山の米軍住宅建設が始まり、オスプレイの全国運用拠点とされ、今年1月からはF35Bステルス戦闘機の配備が開始されました。そしてついこの秋には日米政府は厚木基地からの空母艦載機の移駐を実行しようとしています。

昨年12月10日・11日の「岩国行動2016」は、こうして岩国基地の一大強化が差し迫る中で開催されました。同時に、取り組みに先立つ10月にはF35が米国で飛行中に火事故を起こし、直前の12月7日には岩国基地所属のFA18ホーネット戦闘機が高知沖に墜落し、パイロットの米兵が死亡する事故が発生するなど、岩国基地とその強化策動がもつ危険性があらためて明らかになる中で行われました。

多くの岩国市民の参加を得た「岩国・希望の祭り」、アジアからの米軍の総撤収を掲げた「国際連帯集会」、たたかう労働者・労働組合による「16岩国・労働者反戦交流集会」、基地や愛宕山をめぐるフィールドワーク、そして岩国基地に向けたデモンストレーションなど、2日間にわたって様々な取り組みが行われました。また、今年は第184回目の「愛宕山見守りの集い」にも参加することができ、岩国の人々に私たちの連帯の意思を直接に届けることができました。

これら重層的な取り組みを通じた岩国行動2016の意義は次のように確認できるのではないかと思います。

第一に、F35Bの配備や空母艦載機の移駐など差し迫る岩国基地の一大強化策動と対決し、それを許さない闘いを全国からの結集で実現したことです。それを岩国基地に反対する直接の抗議行動として取り組んだことです。

第二に、沖縄、岩国、京丹後、神奈川、横田で反基地運動を進める人々の参加を得て、反基地運動の全国的な結合と相互連帯を実践的に推進する機会となったことです。それは同時に、各地の反基地運動からの岩国への連帯を進める場ともなりました。

第三に、岩国・労働者反戦交流集会実の努力を通して、全国の労働組合からの岩国への結集を引き続き実現してきたことです。それは、労働運動と反基地運動の双方の発展にとって大きな意味を持つものと思います。第四に、AWC韓国委員会／左派労働者会・労働党およびミグロンテ日本支部の参加を通して、日米軍事同盟に反対し、アジアからの米軍総撤収をめざす反基地の国際連帯を確認し、共同の闘いとして取り組まれたことです。

2017年は岩国反基地闘争にとってきわめて重要な年となります。これまでの取り組みの成果を踏まえ、粘り強くたたかう岩国の人々と連帯し、たたかいをさらに発展させていきたいと思います。



(上) 多くの岩国市民の参加を得た「岩国・希望の祭り」
(下) アジアからの米軍の総撤収を掲げた「国際連帯集会」



第184回目の「愛宕山見守りの集い」にも参加。沖縄やフィリピンのたたかう仲間も連帯発言



岩国基地に向け、市内をデモンストレーション

岩国・労働者反戦交流集会

12月11日朝、岩国・労働者反戦交流集会（以下、労働者集会と略）が岩国福祉会館で行われました。2年ぶりの労働者集会の開催です。

2016年は、労働者実結成10年の節目。また、2017年米軍再編完成をめぐる攻防の激化、戦争法の成立・施行、南スーダンでの駆け付け警護開始、「緊急事態条項」が日程にのぼるなど、大きな時代的転換が進んでいます。この時代をどう闘うか、テーマを明確にして準備された集会は開催されました。

冒頭、このテーマを労働者集会の垣沼代表（おおさかユニオンネットワーク）が提起。

続いてヘリ基地反対協の安次富さんが、沖縄からの力強いアピールを行いました。映像化した基調に続き、各地区から報告。

首都圏からは、東京全労協を軸に横田実行委を形成し、各地域の闘いをどうつないでいくか、と提起。

関西からは、全港湾大阪支部・全日建連帯労組が、昨年の戦争法をめぐる時限ストで闘ったと報告。ケアワーカーユニオンは、福祉切り捨て・弱者切り捨てと闘う総がかり行動を報告。高江ヘリパッド反対闘争・京都Xバンドレーダー米軍基地反対を担ってきた労働者も発言しました。

九州からは、北九州ユニオンや福岡一般労組が、争議分会とともに参加。ナショナルセンターを超えた闘いを切り開いている九州からは、共同を深め、労働運動の再編を推進しようという力強い呼びかけが行われました。

会場からの意見が、次から次へと続きます。

大阪全労協からは、戦争動員が始まる時代に、反基地闘争を担う行動に労働組合の集会が持たれた意味の大きさを提起。

北九州ユニオンからは、戦争反対と経済闘争を結び付け、多数派になろう、平和と暮らしのための総がかりを！と。

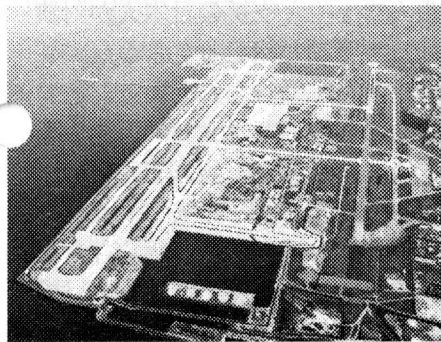
連帯労組やまぐちからは、総がかり行動での取り組みを実現した10年の闘いの成果の確認が提起されました。

全港湾は、沖縄への機動隊派遣を止める住民監査請求の報告、また、同じような目的を持つ部分の集团的動きを作り出そうと提起されました。

まとめとして洛南労組連代表が、労働者集会スタート時の愛宕山住民との「牛野谷の誓い」に立ち、2017年岩国基地大強化に対し、ともに闘っていこうと呼びかけました。



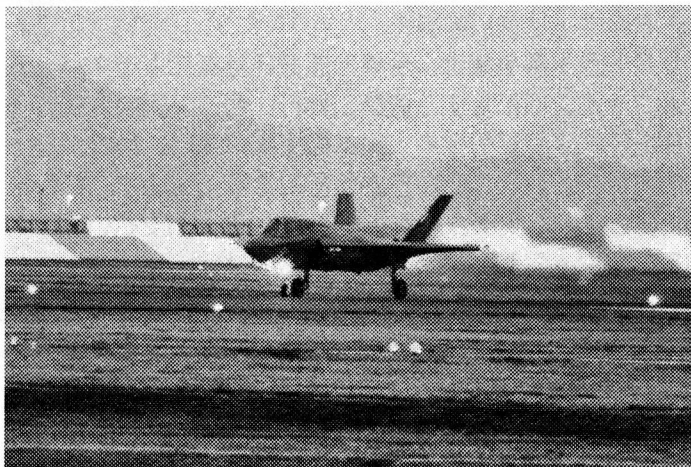
写真特集・岩国基地の大強化とたたかおう！



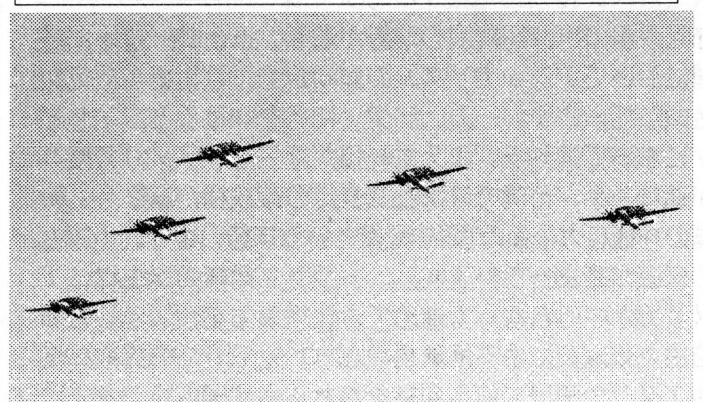
2017年、岩国基地は、いよいよ「極東最大の米空軍基地」へ変貌しようとしています。基地の監視活動をされている、戸村良人さんから、写真を提供していただきましたので紹介します。



（上）岩国に飛来した、普天間基地所属のオスプレイ
（下）厚木基地の早期警戒機5機（2月3日）



配備されたF35Bステルス戦闘機（1月18日）



共同代表・全国幹事からの新年アピール



■瀧川順朗（共同代表・京都）

「アメリカ・ファースト」を唱えるトランプが登場した。一国主義、保護主義を強め、TPP永久離脱、メキシコとの間に壁、関税を上げる、不法移民排除などの大統領令を連発するトランプに世界は翻弄されている。

安倍政権は日米安保＝日米同盟の重要性を売り込むことによって、トランプに取り入ろうとする最悪のシナリオを進もうとしている。

2015年9月に安保法制＝戦争法が成立してから1年数か月、米軍と自衛隊の軍事一体化は飛躍的に進み、自衛隊の性格も海外派兵部隊、資本の海外権益防衛部隊へと大きく変身している。それは、基地の共同使用、装備の拡充、ACSA（物品役務相互提供協定）の更新、米艦防護の運用開始、南西諸島への基地建設と自衛隊の配備、南スーダンへのPKO派兵、米軍をはじめとする外国軍との合同軍事演習が頻繁に行われていることを見ても明らかである。

沖縄の民意を無視して強行されている辺野古新基地建設や高江のオスプレイパッド建設、岩国への今年後半から来年にかけての艦載機移転計画、厚木基地騒音訴訟最高裁判決での「自衛隊機の運用も防衛省・自衛隊の運用の範囲内」とし飛行差し止めを認めない前代未聞の違憲判決、今国会で成立がもくろまれている共謀罪など、焦眉の課題が私たちに突き付けられている。

私たちは、安倍政権の格差と貧困を糊塗するまやかしの「官製春闘」や「働き方改革」を、中小零細の労働者や非正規雇用労働者の闘いによって打ち破っていかう。安倍政権の改憲策動に反対し、安倍政権を打倒しよう。アジアの労働者・民衆と歴史認識を共有し、排外主義と戦争に反対する国際連帯を作り上げよう。朴槿恵政権を追い込んでいる韓国民衆の闘いに学ぼう。

■鴨居守（共同代表）

アメリカではヒラリー・クリントンを破りトランプ大統領が誕生しました。ヨーロッパにおいてはイギリスでは国民投票の結果を受けメイ保守党政権の下、EU離脱の準備が進み、またヨーロッパ各国においてナショナリズムの傾向が強まり、極右政党が台頭しています。一方、アジアに目を向けるとフィリピンにおいてはドゥテルテ大統領が誕生し、アメリカ離れが進む一歩、台湾では民主進歩党の蔡政権が誕生し、韓国の朴槿恵大統領のTHHAD配備という事態の中で、中国との緊張が高まっています。トランプ政権の誕生は、アメリカが中心となって進めてきた軍事力を背景とした新自由主義政策による地球規模（グローバル）での搾取体制がアメリカ国民に何ら利益をもたらさず国内格差をますます



ます拡大し、1%の人間をますます肥え太らせる政策・イデオロギーであり、手段であることが暴露され、それに対する反乱としてあることをみておかなければなりません。しかし、大統領選挙期間中、そして大統領就任後のトランプ大統領の差別的言動・排外主義を助長する政策を許すことはできませんし、私たちはトランプ大統領の差別的言動・排外主義的政策と断固戦う必要があると思います。また、トランプ大統領は「世界の警察官にはならない、自分の国は自分で守れ」とたびたび発言していますが、トランプ政権が実際どのような外交政策をとるかわかりません。トランプ政権の外交政策がどうなるかと、私たちは侵略の最前線としてある米軍の海外基地を日本から、アジアから、世界から撤去することを要求し、撤去させる闘いに決起することが必要だと思えます。『新自由主義グローバル化反対！ 米軍基地撤去！ 侵略戦争反対！ 差別・排外主義反対！』の闘いをAWCに結集し、共に推し進めよう。

■大西豊（笹島日雇労働組合）

私は、日本の労働運動の主要環は、国際連帯と日雇労働者を含む非正規雇用労働者の問題だと数十年来考えてきました。

帝国主義本国労働者の闘いは、「発展途上国」に対する新植民地支配による超過利潤によって買収されています。日本の歴史の反省とアジア人民の闘いに学び共に闘うことが私たちの未来を切り開いていくと思います。

インドヤ争議は、名鉄資本や行政と結託したインド人経営者に対してネパール人コックと支援の日本人が対決する構図でした。ネパールで暴動が起こったようなインドネパール人の支配の図式が日本で行われている、という側面もあったといえます。この件では、4000万円以上の未払い賃金を支払わせました。また、経営者兄弟の1人が、賃金支払いを要求していたネパール人コックに暴行を加え拉致しネパールへ送還して逮捕された事件を機に、テナントオーナーに働きかけて「悪いテナントは置いておけない」として数店舗が撤退を余儀なくされました。

レストラン争議は、台湾の悪徳経営者によるネパール人コック夫婦に対する監禁、暴行、窃盗、賃金未払い事件です。アジア労働者人民への支配、搾取、暴虐が日本国内で行われる、というかたちになっています。この件では、夫のコックさんの未払い賃金400万円支払い判決が最高裁で確定していますが、経営者は一円も払っていません。それどころか、「盗人猛々し」で、日本人、ネパール人13人に対して3800万円の損害賠償・慰謝料請求裁判を起こしています。

世界的に民族排外主義・労働者人民抑圧・好戦的な傾向が進む中、アジア労働者人民の国際連帯でたたかい抜こうではありませんか。

各地からのレポート

■首都圏



私たちAWC首都圏は昨年12月の岩国行動2016に参加し、あらためて米軍再編反対と日本の戦争国家化に反対する声を岩国市民とともに聞きました。そして数日後の12月14日、東京・渋谷の勤労福祉会館でAWC韓国委員会代表・労働党スポークスパーソンのホ・ヨングさんを招いた「革命前夜の韓国」という講演集会を行いました（上写真）。

集会では冒頭に11月11～14日まで韓国を訪れた仲間が報告を行いました。民主労総が取り組む労働者大会と朴槿恵退陣を求める民衆総決起大会への参加。星州（ソング）の連日のローソク集会でサード・ミサイル配備反対闘争との交流。日系侵出企業の旭硝子で、非正規労働者の解雇撤回闘争の現場訪問などが報告されました。

訪韓団は韓国現地の民衆闘争に連帯すべく、帰国後、朴槿恵と安倍との間で交わされた、許しがたい外交政策一日韓軍事情報保護協定および韓国の戦時性奴隷制被害者への欺瞞的な決着である「日韓合意」、これらの撤回を求め、時局宣言をつくって内閣府への抗議行動を闘ったことを報告しました。

その後、ホ・ヨングさんの講演です。朴槿恵政権打倒の闘いは退陣・拘束といった個人の不正腐敗への処罰にとどまらない、財閥解体・新自由主義反対といった社会変革が求められていること。これを闘いとるには、韓国一国だけでなく、アジアや世界の労働者民衆とともに国



際共同闘争を進めることが問われている、とまとめました。

私たちAWC首都圏は2016年、沖縄の闘いに連帯しながら、「沖縄一岩国一京丹後一神奈川一横田を貫く反基地運動の前進」を掲げ「アジアからの米軍総撤収」をスローガンの柱にして反戦と国際連帯を闘ってきました。昨年の闘いを継承しながら、2017年オスプレイの横田配備を許さない闘いに取り組んでいく決意です。

■京都

AWC京都は、昨年11月23日に岩国から田村順玄さんをお招きして、AWC京都主催の岩国連帯集会を開催し、岩国行動2016に全力で参加しました。ここではそれ以外の昨年末から今年初めの活動を報告します。

京都においても毎月19日には、戦争法廃止19行動が取り組まれています。京都共同センター・1000人委員会・市民アクションを中心にした500人規模の取り組みに参加してきました。米軍Xバンドレーダー基地反対運動では、経ヶ岬の米軍人・軍属の実弾射撃訓練の福知山移転に反対する取り組み、12月10日の米軍属による住民3人が重軽傷を負った交通事故に抗議する取り組みなどを行いつつ、11月25日～27日には京都連絡会と米軍基地建設を憂う宇川有志の会の合同での韓国・星州派遣団に取り組みました（右写真）。THAAD配備が予定される星州で、派遣団は大歓迎され、日韓両国へのTHAAD配備に反対する国際共同闘争を前進させることができました。2月4日には、京都連絡会第3回総会&近畿連絡会旗開きを開催します。反原発運動においては、1月22日の高浜原発動かすな！関電包囲全国集会（1000人）と1月29日の福井集会に参加してきました。また、1月28日の大阪での共謀罪反対集会（150人）に参加してきました。

そして、AWC京都の運営委員会を中心にした学習企画を強化していこうということで、当面、精神障害者差別についての学習会、トランプ政権の登場とアジア・世界への影響についての学習会を予定しています。3月から4月の米韓合同軍事演習に対しては2月18日の岩国での日韓共同行動への派遣に取り組むとともに、4月1日には京都で在日団体をも含めて米韓合同軍事演習に反対する集会・デモを共同行動として取り組みます。



国際情報—アメリカ・フィリピン・台湾

反トランプデモを呼び掛けるANSWER連合 (Facebookページより)



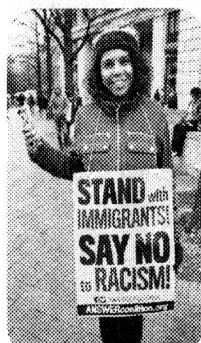
●米国

トランプ新政権に対する草の根からの巨大な抵抗。米国の新大統領ドナルド・トランプの就任式を前後して、米国では首都ワシントンDCをはじめ各地で、新政権に対する大規模な抗議行動が取り組まれた。とりわけ、1月21日のワシントンDCでの「女性たちの行進」には約50万人(市当局の推計)の参加があり、米国全土で200万人ともいわれる人々がトランプに対する抗議に立ち上がった。

トランプの人種差別主義、性差別主義を批判してきたANSWER連合は、それまでもトランプに対する様々な抗議行動を組織してきた。そして、昨年11月に大統領選でのトランプの勝利が最終的に確定すると一早く大統領就任式に対する直接抗議行動を呼びかけてきた。その呼びかけ文には次のようにある。「選挙の日にはどのように投票するのは大事なことだが、より重要なことは我々がこの国、そして世界を真に変革しうる大衆運動を築き続けることだ」、「真の社会変革は底辺から、動員された草の根からなされるのであって、制度的権力やプロフェッショナルの政治家、資本主義的エリートたちによってなされるのではない」。ANSWER連合は、そのたたかいを「戦争、国主義、人種差別主義、反移民政策、そして労働者の生活水準や環境に対する新自由主義的資本主義の攻撃に対するより大きな草の根の運動を築く」ためのものと位置づけてきた。

就任式当日の1月20日、ANSWER連合は就任パレードが行われるワシントンDCのペンシルベニア通りに面した海軍記念広場に集会場を確保し、午前7時から抗議行動を開始した。この日、ワシントンDCは厳戒体制で、海軍記念広場に至る道にも検問所が設置され、それを通過して集会場に辿りつくのに何時間もかかった。結局、集会場まで辿りつけなかった人たちも何千人といた。それでも、トランプの就任パレードが通過した午後4時までには一帯は抗議する人々で埋め尽くされ、トランプに対する直接的な抗議が叩きつけられた。

トランプ新政権の下で拡大する米国の民衆の抵抗とその発展に注目し、連帯しよう。



移民労働者との連帯、人種差別主義反対を訴えるANSWER連合

●フィリピン

安倍首相のフィリピン訪問にBAYANなどが抗議行動

1月12日から13日にかけて、安倍首相がフィリピンを訪問し、ドゥテルテ大統領との首脳会談を行った。これに対して、新民族主義者同盟(BAYAN)は12日、元日本軍「慰安婦」の女性たちなどと共に、マニラの日本大使館に対する抗議行動に立ち上がった。



この抗議行動は、日本軍「慰安婦」とされた女性たちへの日本政府による公式謝罪と国家賠償を要求するとともに、日比の軍事協力強化に反対するものとして取り組まれた。抗議行動の中では、かつて日本軍の「慰安婦」とされたロラ(タガログ語でおばあさん)が直接に日本政府による謝罪と賠償を要求し、ドゥテルテ大統領に対してはこの問題を首脳会談で取り上げるように訴えた。BAYANは「日本の首相の訪問は、フィリピンに軍事プレゼンスをゆるやかに確立するためのもうひとつのステップだ」と指摘し、「われわれBAYANは、日本が米国と共にこの地域の軍事化に参画していく口実として、フィリピンと中国の間の領海問題や朝鮮民主主義人民共和国との問題を利用することを憂慮している。われわれは中国が紛争地域である西フィリピン海で軍事的増強を図ることに反対するが、米国や日本がこの地域での軍拡競争に加わることを望んではいない」として、日比訪問軍協定の締結をはじめとする日比の軍事協力強化に反対した。

今回の日比首脳会談では、日本側からODAおよび民間投資として今後5年間で一兆円規模の「支援」を行うことが表明されると共に、今年の米比合同軍事演習バリカタンにも自衛隊が参加予定であることが明らかにされた。安倍政権はドゥテルテ政権を米国を中心としたアジアにおける軍事同盟網の中につなぎ留める役割を演じ、同時にフィリピンを自衛隊の海外展開のための橋頭保としてしている。これとたたかうことが必要だ。なお、AWC日本連はこの日の抗議行動に対して連帯メッセージを送った。

●台湾



陳映真さんを追悼する

台湾労働人権協会・台湾労働党のメンバーで、その結成以来重要な役割をされてきた陳映真さんが2016年11月22日に北京で逝去されました。享年79歳でした。

陳映真さんはAWCが結成される1992年の「米日軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する十月国際会議」に台湾労働人権協会を代表して参加されました。その時の報告は「台湾社会史から見た日米帝国主義」と題するもので、台湾に対する日米帝国主義の支配と侵略・介入の歴史と現在の関係を鋭く明らかにするものでした。2012年10月に86歳で亡くなられた林書揚さんと共に、AWCと台湾をつなぎ、アジアにおける労働者・民衆の共同闘争の形成と発展のために大きな役割をされました。AWC日本連の台湾訪問時にもいろいろとお世話になっています。

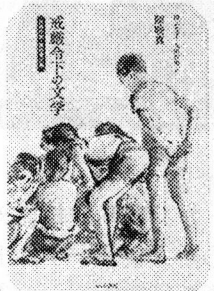
陳映真さん自身は、戒厳令下の台湾で、マルクスやレー

ニン、魯迅などの「左翼文書」を宣伝して転覆と反乱を企てたとして1968年に逮捕されて懲役10年の刑を受け、その後1975年に釈放されるまで7年間を獄中で過ごしました。東アジアの冷戦時代を生き抜いた方だということです。1987年の戒厳令解除後は、中国統一連盟の主席となり、台湾労働党の結成に関わりました。

陳映真さんはまた、「郷土文学論争」をはじめ台湾の文学史に名を刻む著名な作家であり、いくつかの代表作が日本語訳されています。最近でも『戒厳令下の文学—台湾作家・陳映真文集』が日本語で出版されています(2016年4月/せりか書房)。

2016年12月31日には台北で追悼フォーラムが開催され、白色テロル受難者の陳明忠さんや労働党主席の呉榮元さん、靖国訴訟をたたかわれてこられた高金素梅さんなど多くの方が故人とその果たした多面的な役割を偲びました。

ここに謹んで追悼を捧げたいと思います。(AWC国際事務局)



今後の活動予定

■反原発運動

- ★2月18日「さよなら原発! 2・18 玄海原発再稼働を許さない九州総決起集会」
- 13時開始〜14時デモ/佐賀市天神・どんどんの森/主催:玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
- ★3月11日「3・11福島原発事故6ヵ年弾劾! 反原発行動」(東京)
- 第1部 14時〜16時 (東京電力本店前) 第2部 16時15分〜16時45分 (JR新橋駅前SL広場) /呼びかけ「経産省前デントひろば」「たんぼぼ舎」

- ★3月11日「高浜原発動かすな! 福島に思いをはせ、みんながデモしよう バイバイ原発3・11きょうと2017」
- 13時30分〜14時 山野外音楽堂/デモ15時出発・京都市役所前まで
- 主催:バイバイ原発京都実行委員会

- 3月12日「さよなら原発 関西アクション」再稼働やめて! 核燃サイクル中止!
- さよなら原発コンサート12:00〜13:20/本集会13:30〜14:45/中之島公園/デモ15:00〜
- 主催:さよなら原発関西アクション実行委員会

- ★3月18日「原発はいらない 福島県民集会」
- 13時10分開始/場所:郡山市開成山競技場
- ★3月20日「さよなら原発大集会」(東京)
- 13時30分トーク〜15時デモ/代々木公園

- 反戦反基地運動
- ★2月18日「米韓合同軍事演習 反対! 日韓共同行動 in 岩国」
- 13時フィールドワーク〜15時集會(川下共用会館) 17時30分から交流会(牛野谷南集会場)
- ★2月19日「格差・貧困にノー! みんなが尊重される社会を!」
- 13時半開始/日比谷野外音楽堂/戦争法廃止! 反戦反基地! 総がり行動

- ★3月4日「戦争・治安・改憲 NO! 3/4集会」 瀬瀬厚さん講演
- 18時15分開始/文京区民センター
- 3A/主催:同総行動実行委員会
- ★3月13日「戦争・治安・改憲 NO! 霞ヶ関デモ」
- 18時結集/日比谷公園霞門/主催:同総行動実行委員会

- 3月18日「イラク開戦14年とめよう! 戦争への道2017 関西のつどい」
- 13時30分開場、14時開会/会場:

- エルおおさか大ホール(エルシアター) / 講演: 半田滋さん (東京新聞論説委員兼編集委員)
- 安次富浩さん(ヘリ基地反対協議会共同代表) / 主催: 戦争をさせない100人委員会・大阪等
- 3月19日「戦争法廃止! 19行動」
- 集合: 京都市役所前(詳細未定)
- 4月1日「米韓合同軍事演習に反対する京都集会・デモ」
- 14時〜東山いきいき市民活動センター/集会室/集会後にデモ/主催: 同実行委員会
- 反天皇制運動
- ★2月11日(土) 第38回目「紀元節(建国記念の日)」を考える2・11京都集会
- 14時〜日本キリスト教団洛陽教会・地下ホール/講師: 池田浩士さん(京都大学名誉教授)
- 共催: 反戦・反貧困・反差別共同行動(きょうと)等
- 改憲阻止運動
- ★5月3日「施行70年 いよいよ日本国憲法! 平和といのちと人権を! 憲法集会」
- (13時開始/東京・有明防災公園/デモ行進あり) その他、各地にて5・3改憲阻止行動
- 3月25日アジア共同行動・日本連絡会議・第22回総会(13時〜東京都内)